

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成30年4月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】機械工業を中心に持ち直しの動きが継続

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数は、前月の減少から一転、増加に転じており、自動車関連を中心に引き続き好調を示すヒアリングも多く聞かれている。一方、原油高を背景とした原材料、燃料費の高騰により、利益率に圧迫が懸念されている。

【地場産業】厳しい状況が継続している

○地場産業は、売り先の減少、消費の縮小に加え、人材不足の深刻化等、全体的に厳しい状況が継続しており、展示会への出展等PRの重要性が増している。

【設備投資】業績好調な企業を中心に、底堅く推移している

○設備投資は、国内金属工作機械受注額が堅調に推移する中、ロボットやIoTの導入による省人化、コストダウンを目的とした設備投資が、業績好調な企業を中心に増加。

【個人消費】全体的に緩やかな回復に留まっている

○個人消費は、現金給与総額や実質賃金は改善しているものの、百貨店・スーパーやコンビニ等小売店販売額の増加率が縮小傾向にあり、新車販売台数（軽自動車を含む）も減少傾向にあるなど、全体的には緩やかな回復に留まっている。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに前年同月を上回った

○観光は、前年と比較し、日の並びの関係で休日の日数が1日多かったうえ、天候にも恵まれ、桜等の開花が早まり、屋外施設を中心に全体として前年同月を上回った。

【資金繰り】資金繰りは改善するも、小規模企業には厳しい状況が継続

○企業の資金繰りは、金融機関の積極姿勢から、貸出残高は増加し、資金繰りDIは改善した反面、県制度融資については、好調な借入環境を背景に低調に推移。一方で、倒産件数については、人手不足、利益圧縮を背景に増加し、借入難易感DIも悪化するなど、依然として、体力の弱い小規模企業は厳しい状況にある。

【雇用】雇用情勢の改善とともに、人手不足感の拡大が継続している

○雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、改善が続いており、総じて県内の雇用情勢は着実に改善している。但し、労働需要側である企業においては、人手不足の慢性化とともに、人件費の高まりが収益を圧迫するなど、経営への悪影響が懸念される。